

山の手東グループ活動通信

東京都立杉並総合高校・杉並工業高校インターンシップについて

地区インターンシップ担当 東山 晴雄（東城西RC）



本年度インターンシップは、5月15日都庁第二庁舎会議室で開催された「平成21年度国際ロータリー第2750地区と東京都教育委員会との連携によるインターンシップ事業連絡会」で正式にキックオフとなりました。東京都教育委員会、都立杉並総合・同深沢・同杉並工業・同八王子北・同第五商業高等学校の5校、ロータリー地区職業奉仕委員会秋山委員長・廣瀬副委員長（インターンシップ担当）・担当委員の三者が会議に参加しました。

山の手東グループの私にとりましては、5月8日杉並総合高校を熊野会員と訪問し深谷先生に面談した時が実質的なスタートとなりました。今年度は総員238名のインターンシップを予定している事と、その実施計画について説明がありました。7月上旬の協力要請文の企業宛発送に始まり12月中旬の生徒に対するビジネスマナー講座の実施で完了するインターンシップ事前準備は日常校務との並行作業であり、先生にとって大変な作業量だと実感致しました。その際「平成20年度インターンシップ生徒用アンケート結果・同事業者用アンケート結果」の資料説明がありました。その一部をご紹介しますが、この結果を見ますと我々の活動が確実に成果を生んでいることを実感できると思います。

生徒用アンケート結果によりますと、
問9. 進路選択の参考になりましたか。

参考になった31%、ややそう思う50%で肯定的回答が81%でした

問10. 職業についての理解が深まりましたか。

深まったと思う41%、やや思う45%で肯定的回答が86%でした

事業者用アンケート結果によりますと

問10. 今回のインターンシップを通じて生徒に何か変化が起きたとお考えですか。

変化が起きたと思う32%、ややそう思う53%で肯定的回答が85%でした

問11. 前問で肯定的回答をした場合、どのような点に変化が起きたとお考えですか。

- ア. インターンシップの実習前と実習後では、生徒の仕事に対する考え方が大きく変化したように面談を通じ感じました。
- イ. 振り返りシートで、体験に来る前と後の気持ちの変化を感じました。体験の1日目より2日目の生徒さんの表情が楽しそうだった。
- ウ. 2日目にはサービスが楽しいと思ってくれるようになり、声や表情が良くなりました。（回答例の一部です）

その後、5月11日に杉並工業高校を熊野会員と訪問し、猪瀬先生に面談いたしました。その際、生徒諸氏の挨拶の素晴らしさに圧倒されました。校舎内の廊下は勿論校舎外でも生徒が全員我々に対し明るく元気に大声で挨拶をしてくれます。猪瀬先生によりますと、しっかりと挨拶ができるよう日頃から指導を徹底しているとの発言がありました。

杉並総合高校は山の手東グループで支援し、杉並工業高校は東城西・東京西南・東京杉並の3クラブを中心に支援しております。両校とも各々素晴らしい特色を持った高等学校であり、我々も更に成果が上がるように努力してまいりたいと思っております。

